

太陽光施工のための DX最前線

クラウドアプリで
情報共有



特別対談

エクソル代表 鈴木伸一氏 × アンドパッド代表 稲田武夫氏
「これからの太陽光ビジネスに
なぜDX化が求められるのか？」

品質と効率を同時に高める
DXのポテンシャル

3つのポイントでわかる
建設DXツール「ANDPAD」とは

DX化成功事例

協力会社とアプリで連携
ユーザーが語るDX業務改革

(神奈川県・株式会社サニー)

SOLAR
ソーラージャーナル「アンドパッド」特別号
2022年1月発行 発行：株式会社アグロシステム・ソーラー 〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-20-4代々木イナビル5F TEL:03-6300-4430 PRINT/ジャーナル印刷株式会社

ANDPAD

テクノロジーを通じて 建設業界で働く人の未来を幸せにする

私たちアンドパッドは、「幸せを築く人を、幸せに。」というミッションを掲げ、建設・建築業界の社会問題と向き合い、テクノロジーで挑み続けてきました。2016年のサービスリリース以来、現場の声を反映し使いやすさにこだわった開発と、導入・運用定着化への徹底したサポートで、ユーザー数33万人、ご利用社数13万社という多くの方々にご利用いただけるまでに成長いたしました。これからも、業界への「貢献心」と、「ものづくりへのこだわり」を胸に、建設業界のDX化へ向けて、お客様と共に伴走していきます。

おかげさまで選ばれて シェアNo.1

ユーザー数 **330,000**人
ご利用社数 **130,000**社



太陽光企業での活用が拡大中!



OMソーラー株式会社 技術サポートセンターのみなさま

「業務フローの再構築で
情報共有がスムーズに!
事前の是正指示で
品質も向上しました。」



メールや電話での連絡に多くの時間を取られていましたが、業務フローにANDPADを組み込むことで、スムーズに工事ができるようになりました。おかげで、協力会社さんとのやりとりもこれまで以上に密になり信頼度も向上、事前の是正指示で施工品質も上がっています。

株式会社Loop 再エネ事業本部 坂元 大興 様

「現場状況が見える化し、
遠隔でも円滑なやりとり!
工事遅延、やり直し
工事がほぼゼロに。」



現場とのやりとりが上手く進まず工事の遅延も発生していましたが、ANDPAD導入後は遠隔でも問題解決が図れるようになり、訪問回数も半分程度削減できました。部署間のコミュニケーションがスムーズになったことで業務にも余裕が生まれ、新しい取り組みも進み始めました。

導入
事例集

より詳しい
情報は
こちらから!



ANDPAD



アンドパッド 検索
<https://lp.andpad.jp>

TEL 03-4405-3840 MAIL info@andpad.jp

株式会社アンドパッド 〒101-0022 東京都千代田区神田練馬町300 住友不動産秋葉原駅前ビル8階 ※「クラウド型施工管理サービスの市場動向とベンダーシェア」(デロイトトーマツミッド経済研究所調べ)

これからの太陽光ビジネスに なぜDX化が求められるのか？

脱炭素化、自家消費の拡大などで太陽光業界が大きく変化している。太陽光発電のトップランナーであるエクソルの鈴木伸一社長とアンドパッドの稲田武夫社長が、DX化による業務改善の重要性と期待される未来を語り尽くす。

撮影/松尾夏樹 取材・文/大根田康介

太陽光発電で急激な需要増設計の手戻りが懸念材料

アンドパッド稲田氏(以下、稲田)

当社は建設現場で使うクラウドソフト「ANDPAD」の開発・運営をしています。住宅業界向けの施工管理ソフトを開発したのが始まりで、ANDPAD1つでプロジェクト管理ができます。

エクソル様では、主に自治体での自家消費型太陽光発電開発の施工管理で使いたいと思っています。**エクソル鈴木氏(以下、鈴木)**

太陽光発電業界の大きな潮流として、固定価格買取制度(FIT)が終わりに差しかかる一方、導入量のトレンドは全く衰えていません。当社にも自家消費などの非FIT案件が山のように来ています。それにどう対応するか。キャパシティを見誤ると大きなトラブルにつながる可能性があります。

しい悲鳴の前の恐怖といった感じ

です。最近200MWなど大きな塊でプロジェクトが動いています。公共自家発電もその1つで、もはや地域開発計画に近いですね。

稲田 突発的に短納期の案件がたくさん出たとして、御社内のリソースが受注上限になってしま

うことが起こりえると思います。御社で営業や設計など、特にどの部分で受注に差し支えが出る恐れが考えられますか。

鈴木 太陽光発電事業は設計の手戻りがとても多いのが特徴です。大きなプロジェクトになるほど、場所やスペックを変更しながら進むことが多いからです。公共案件はあらかじめ場所もスペックも決

まっており、計画通りに進むことが多いです。一方、オーナーは決まっているけど開発場所はどこでもいいという民間案件だと、最近一部業者による手抜き工事や環境破壊などの問題がクローズアップされていることもあり、計画を変更する場合もあります。そういうケースで、もしデジタルトランスフォーメーション(DX)ができていなければ、一から設計の手直しも起こります。以前の図面を流用するにしても、どこを変えてはいけないという基準も色々あります。

そうした部分にDX的な支援が入っていれば、ユーザーとしてはすごくやりやすいですね。

DX化はプロジェクトの在り方そのものを変えたいと思います。

情報や業務管理のDX化は安全性と品質の向上につながります。

PMの効率化だけでなくプロジェクトの在り方を変える

稲田 案件に流動性があるのは建設業界でも同じですね。そこで大事な情報は情報をストックし活用しやすくすること、プロジェクトマネジメント(PM)で各職種の業務を定義つけることです。

ANDPADには、業務をタスクレベルで定義付けし進捗管理ができるタスク管理機能があります。設計や監督など各職種のPMが自分自身の業務に専念できるようにになります。また、品質管理でも、検査などの業務をマニュアル化し、未経験人材を活用することもできます。これなら太陽光発電に見られる急激な需要増加にも対応できます。

鈴木 品質問題でいえば、かつては売電最優先で問題のある太陽光発電所が見え隠れしていましたが、

現在は開発コスト削減よりも安全性が求められています。

また株式市場の格付け制度に類するものがなく、発電所の資産価値の面でもきちんとした保証がなされていません。もし今後、発電所の格付け制度ができた時、DX化の中で安全性や資産価値と紐づけられれば、国や事業者が論理的なデータや調査事実に基づき地域住民に必要性を説明できるようになるでしょう。

これは単なるPMの効率化にとどまらず、プロジェクトの在り方そのものも変えると思います。現場に何が求められているのか、当社には多くの情報が入ってきます。御社と我々が一緒に、プロジェクトを格付けや資産価値などと紐づ

けながら一気通貫で進められるアプリを開発できるといいですね。

稲田 本場にそうですね。発電所の資産価値や安全性をデータで証明する試みは、とても面白いと感じます。別事例ですが、木造住宅は、法定耐用年数を経ると建物の資産価値はゼロになるといわれています。一方で新築の着工戸数は減っているため、行政も履歴情報に対するルールメイキングは従前より議論されている認識です。

太陽光発電においても、格付け制度の在り方を業界全体で定義できれば、共通データベースは構築できます。そんな社会的価値がある取り組みを一緒にできれば嬉しいですね。

ANDPAD 株式会社アンドパッド 代表取締役 稲田武夫氏

慶應義塾大学経済学部卒業後、リクルートで人事・開発・新規事業開発に従事。2014年アンドパッド(旧:オクト)設立。建築・建設現場の施工管理アプリ「ANDPAD」を開発。Forbes JAPANの「日本の起業家ランキング2022」において3位に選出された。

XSOL 株式会社エクソル 代表取締役社長 鈴木伸一氏

1982年三菱電機に入社し、1995年から太陽光発電システム事業に従事。2013年から太陽光発電協会事務局長を務めた後、2015年エクソルに入社。代表取締役副社長に就任。2016年、代表取締役社長に就任。2019年から太陽光発電協会理事も務める。